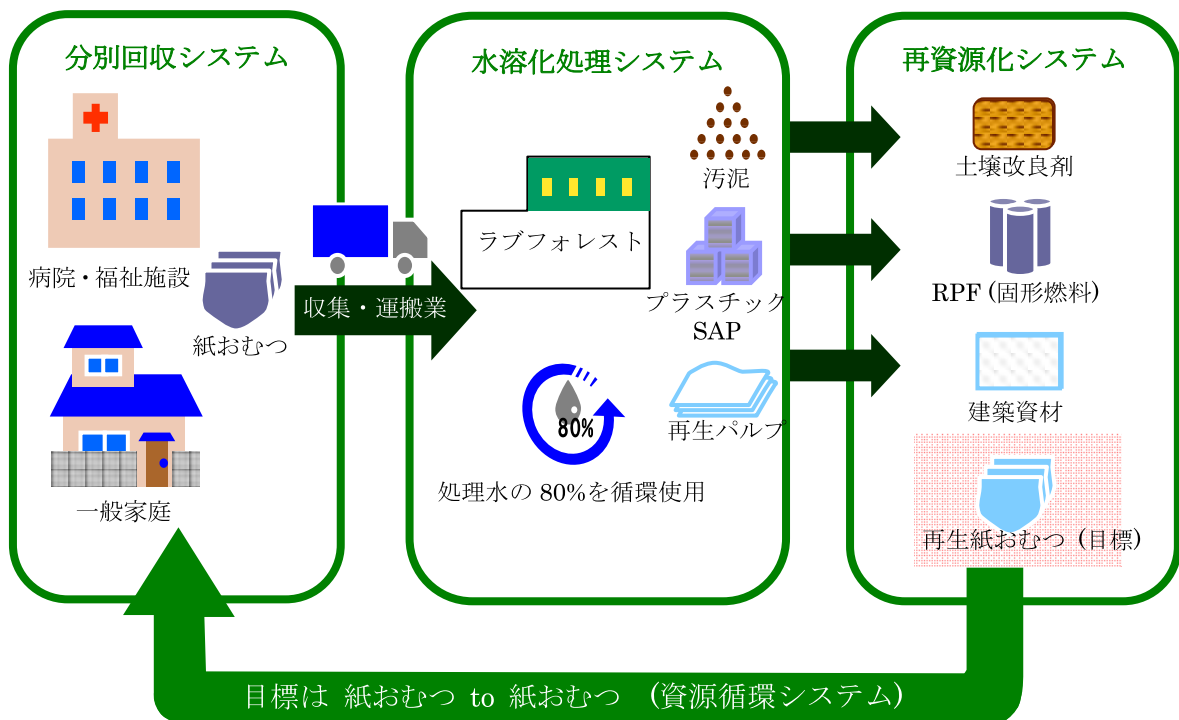


**RRR 環境大臣賞(1件)**  
Reduce Reuse Recycle

|                                 |  |
|---------------------------------|--|
| <b>環境大臣賞</b><br>「事業所・地方公共団体等」分野 | 受賞者名<br><b>トータルケア・システム株式会社</b>                         |
|                                 | 取組の実践場所<br><b>福岡県大牟田市</b>                              |
|                                 | 受賞テーマ<br><b>環境と福祉からまちづくりに寄与する使用済み紙おむつのマテリアルリサイクル事業</b> |

受賞者は、水溶化分離技術により使用済み紙おむつから再生パルプを取り出して販売する、全国初の紙おむつ専門のリサイクル事業を行っている。同社が考える紙おむつリサイクルシステムとは、病院・福祉施設および一般家庭から排出される紙おむつを回収する『分別回収システム』と、その紙おむつを素材ごとに分ける『水溶化処理システム』、分けられた素材を再資源化する『再資源化システム』の3つのシステムが一体となって機能するシステムである。



使用済み紙おむつから回収した再生パルプは建築資材の原料、プラスチックとSAP（高吸水性ポリマー）はRPF（固形燃料）、汚泥は土壌改良材にそれぞれ再利用している。

また、この紙おむつリサイクルシステムでは焼却処理と比較してCO<sub>2</sub>排出量が約37%削減できることが北九州市立大学の松本亨教授から学会発表されている。

環境省の推計では、日本国内における使用済み紙おむつは年間約174～192万トンが一般廃棄物、約18万トンが産業廃棄物として処理されており、この量は一般廃棄物排出量に占める割合で表すと4.0～4.4%程度であり、2030年度には5.9～6.3%まで増加するといわれている。

2011年から自治体初となる一般家庭からの紙おむつリサイクルを福岡県大牟田市と取り組みをスタートさせ、紙おむつ専用回収ボックスを街角に設置することで、住民は24時間いつでも排出することが可能となり、家庭内での保管で気になる臭いの問題や使用者のプライバシーを守ることが出来る回収方式が実施されている。また、高齢者の独居世帯などゴミ出しが困難な家庭への個別分別回収をシルバー人材センターが行うことで、見守り社会の形成へとつなげることが出来た。

事業の開始から15年間、様々な取り組みを経て、紙おむつから回収できる素材をすべてマテリアルリサイクルできる完結型マテリアルリサイクルの目処が立ち、排出者が資源循環を実感できるリサイクルシステムの全国展開を目指している。

